

地 金田恵比須祭り
地域の繁栄願う年の瀬の招福行事

12月2日の夜から3日にかけて、金田恵比須神社奉賛会主催の「恵比須祭り」が金田菅原神社境内で催されました。参拝に訪れた約1千700人は、日用品や食品などが当たる福引きや富くじで年の瀬の運試しを楽しみ、家内安全や商売繁盛などを祈願。境内では参拝客に縁起をもたらす「打ちこみ」が行われ、遅くまで人々が語り地域をつなぐを深めていました。



↑ 家内安全や商売繁盛を願う「打ちこみ」の掛け声が、絶えず会場に響きました。

↓ 約10kgの一億円模型の持ち上げ体験など、児童の興味をくすぐる授業を展開。



一 田川市郡租税教育推進協議会主催「租税教室」
億円の重さ体感し税の大切さ実感

役場税務課職員による「租税教室」が12月13日に金田小で開かれました。これは田川市郡租税教育推進協議会主催の事業で、児童に税の意義や役割を正しく理解してもらうことが目的。授業では「税が無くなるとどうなるか」を紹介したアニメ視聴や一億円持ち上げ体験も行われ、税のプロからの特別授業は6年生106人にとって税の大切さを学ぶ貴重な時間となったようです。

青 りんご食農・食育学習
森りんごを通じて食への理解を深める

りんごを通じて食育活動を行う青森県福岡情報センター主催の「りんご出前授業」が、12月13日に市場小で開かれました。講演では、青森県が全国の生産量の55%を占めることや、大雪が降る中で作業が強いられるりんご農家の苦労話などを紹介。りんごの魅力を伝えるとともに、「りんごを食べるときは農家の事を思い出してほしい」と生産者の思いを代弁していました。



↑ 受講した4・5年生に、人気品種「サンふじ(®)」と「王林」の栽培方法を説明。

↓ 訪れた乗降客にすいとんを振る舞いながら、方城大非常をしのぶチラシも配布。



原 「へいちく」コラボの方城すいとんふるまい会
原点の日を忘れないために

方城大非常が発生した際、親を亡くした子どもたちふるまわれたことがルーツと言われる「方城すいとん」。炭鉱の歴史と尊い命の犠牲を忘れないために、12月15日の100回忌にあわせて、「福智好いとん隊」によるふるまい会が金田駅で開かれました。へいちくの乗降客など約300人がその味に舌鼓し、郷土料理に込められた思いと温もりをかみしめました。

↓ 大正4年に建立された、山の神(中央保育所裏)にある罹災者招魂碑。参列者が当時に思いを馳せました。



炭 方城大非常100回忌法要
炭鉱爆発事故の犠牲者を悼む

99年前の大正3年12月15日午前9時40分、人口約4千人の旧方城村で、その約5分の1にあたる671人が突如として地底に閉ざされた、日本史上最大の炭鉱爆発事故「方城大非常」。その犠牲者を弔う100回忌の法要が、12月15日に菩提寺である福円寺(伊方)で営まれました。犠牲者の鎮魂や事故の風化を防ぐことが目的で始まったこの法要は、100回忌を迎えた今回が最後の取り組み。法要では、寺の住職3人が読経する中、遺族や関係者約50人が参列し、沈痛な表情で慰霊碑に焼香。犠牲者の冥福を祈りました。

多 福智町人権週間講演会
多様性を認める社会を目指して

11月27日に地域交流センターで人権週間講演会が開催されました。女性差別解消に尽力しているNPO法人「福岡ジェンダー研究所」理事の倉富史枝さんが、日本に根強く残る女性差別の現状を諸外国と比較しながら詳しく解説。講演の最後に倉富さんは、「男は、女は、こうあるべき」という縛りをなくし、互いが認め合える社会を築きましょう」と力強く訴えました。



↑ 参加者約300人はデータに基づき倉富さんの鋭い人権感覚に聞き入っていました。

↓ 開会式で41チームを代表して堂々と選手宣誓を行った宮崎翼選手(市場小6年)。



練 赤池ジュニアベアーズ創立40周年記念大会
練習で培った技術と40年の誇りを胸に

「赤池ジュニアベアーズ」の創立40周年を記念した少年野球大会が、11月24日から12月1日まで町内各地の球場で開かれました。筑豊地区を中心に41球団が参加し、保護者らの熱い声援を背に受けたベアーズのナインは決勝に進出。筑穂ヤングファイターズとの決勝では、最終回に逆転され敗れたものの、最後の1球まで全力でプレーする選手たちの姿が印象的でした。